

アマリリス

胸に 挿しこまれる
白い指
それが 古い葉であったかのように
静かに開かれる 記憶
アマリリスの花のように
君を この世界から雀りとりたかった
教えてほしい
夕方 街路樹にもたれ
ポケットのなかで

君をバラバラにするとき^さ
家に帰ろうとする君が 振り返ったのは
その唇が
微笑のかたちになりかけていたのは
どうしてだったのか
僕は 病んだ瞳のまま
ちぎれた花びらを 冷たい空気のなかに
流している
さっきまで君がいた場所には
鳥の死骸が落ちていた
赤い雪は
屍衣のように 小鳥を覆いかくす
空の記憶は埋葬される
いつか 烈しい風が過ぎるまで

君たちは永劫にそのままだ

それとも

もう過ぎてしまったのだろうか

だから 君は埋められたままで

君は立ち去ったままで

僕は 重くうなだれたままで

指先は 花びらのように零れ落ち

あらわれた 本当の冬

僕たちの惨苦は

僕たちもろとも 砕け散る